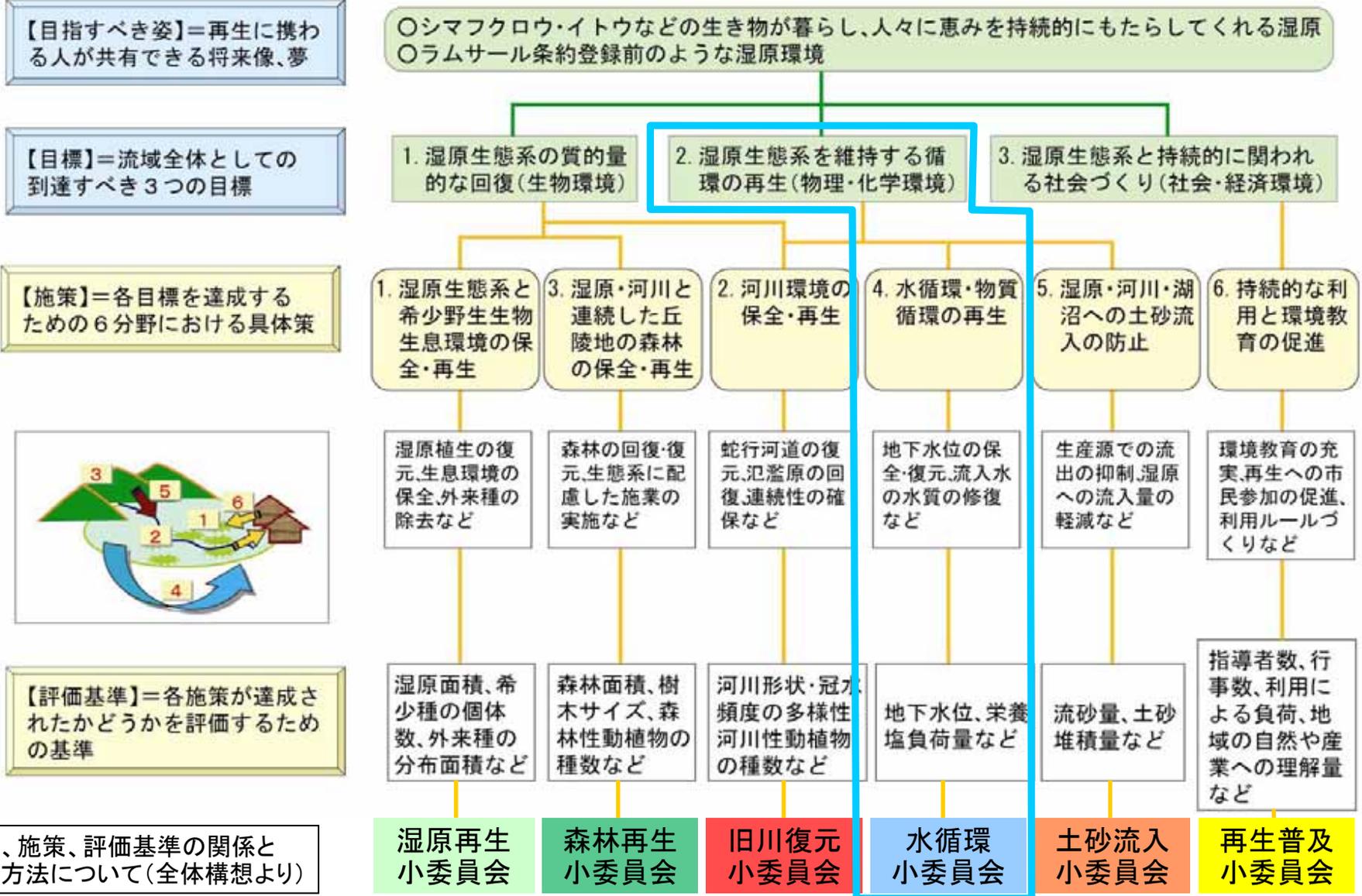


2. 5年目の施策の振り返りについて

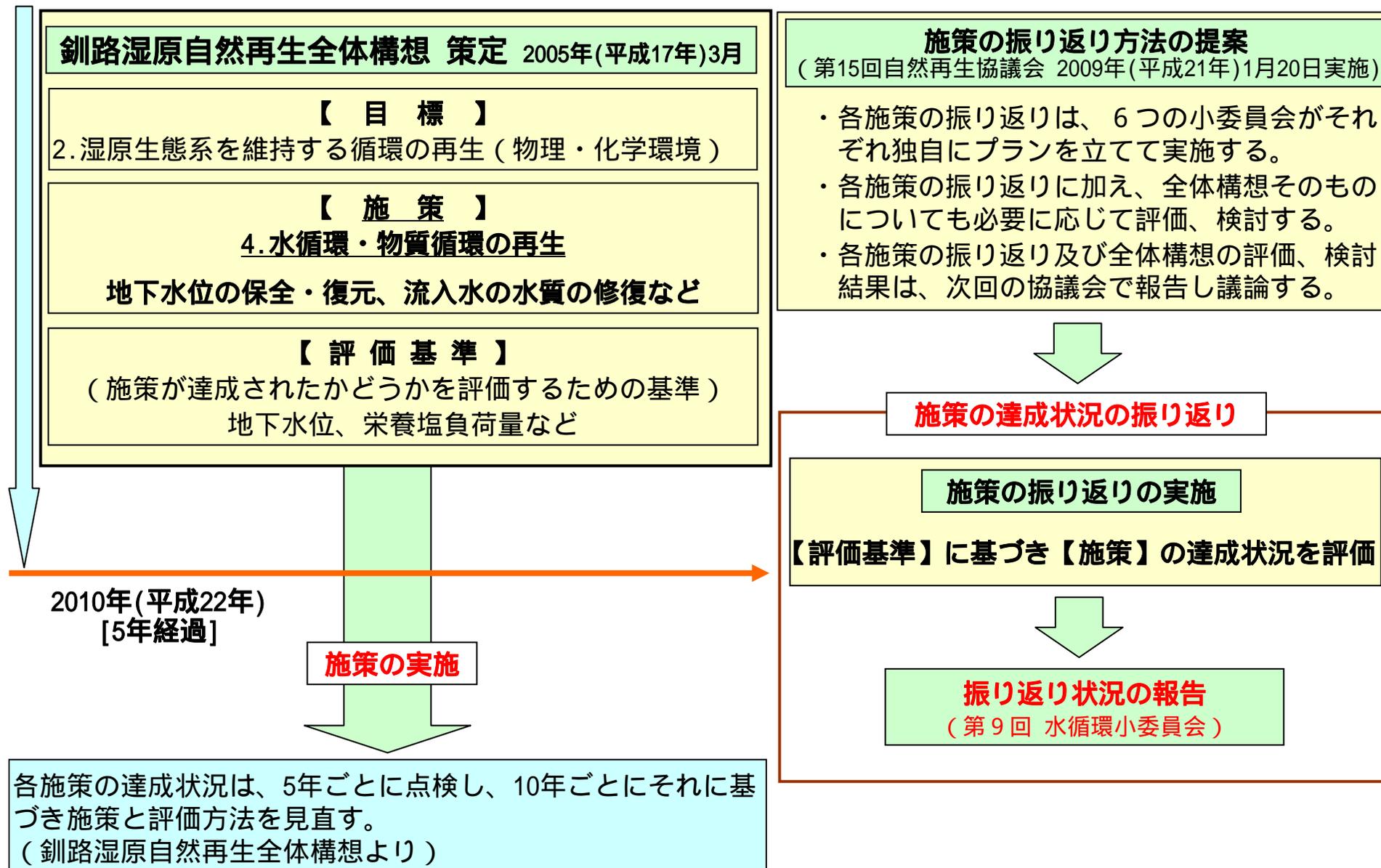
2. 5年目の施策の振り返りについて

- ・ 釧路湿原自然再生全体構想が2005年（平成17年）3月に策定され、2010年（平成22年）3月で5年が経過しました。
- ・ 自然再生事業を効率的、順応的に実施していくため、全体構想の中で、各施策の達成状況は5年ごとに点検し、10年ごとにそれに基づき施策と評価方法を見直すことが掲げられています。



2. 5年目の施策の振り返りについて

- ・全体構想の「評価基準」に基づき「施策」の達成状況を評価・点検します。



(1) 5年目の施策の振り返りについて

【水循環小委員会】

【水循環・物質循環の再生の施策の振り返り結果】

A . 流域全体での評価基準	評価結果(案)
流量と流砂量や栄養塩負荷量との関係、流域での収支の解明	<p>釧路川流域を対象とした『水循環(水の移動)の計算』により、地下水・河川水のおおまかな流れや湧き水の状況を再現できるようになり、年間の水の出入り(水収支)を解明できた。 (資料p19参照)。 久著呂川下流部を対象に窒素、リン(栄養塩負荷量)などについて調査(平成14年~平成16年)を実施した。</p>
河川水位や湿原地下水位	
流砂量や栄養塩負荷量の減少	
A . 流域全体での振り返り結果	<p>釧路川流域を対象とした計算手法により釧路湿原の水の出入り(水収支)は解明できた。 今後は水と一緒に流入する窒素、リン(栄養塩負荷量)などについて検討を進めて、水や物質の移動現象の把握に努める。</p>
B . 手法の実施結果の評価基準	評価結果(案)
河川水位や湿原地下水位	<p>釧路湿原を対象とした計算手法により釧路湿原全体の地下水位の傾向を再現することができた。 (資料p22参照) 地下水位の動きの再現には課題が残った。(資料p23参照)</p>
下流部における流砂量や栄養塩負荷量の減少	
B . 手法の実施結果の振り返り結果	<p>釧路湿原の地下水位の動きの再現や物質の移動現象などの現象の解明には、到らなかった。</p>
総合評価(案)	<p>これまでの検討で得られた知見については、他の小委員会における施策の検討に活用できるように連携する。</p>